

グロボティクス（グローバル化＋ロボット化）の影響

著者	藤原 憲二
雑誌名	エコノフォーラム
号	28
ページ	68-68
発行年	2022-03
URL	http://hdl.handle.net/10236/00030291

2021年
6月22日
火曜日

藤原 憲二 教授（国際経済学）

グローバル化（グローバリゼーション）とロボット化（ロボティクス）の影響

コロナがもたらした社会変化のひとつにリモート化の進展がある。ある調査によると日本での1、2回目の緊急事態宣言後のリモートワーク実施率は各々32.8%、25.4%だった²。コロナ前にリモート化の影響を論じたのがリチャード・ボールドウィン（2019年）『グローバルボテックス』を基に日本への影響について考える³。

本書の結論はサービス業のリモート化によって雇用が激減するということである。本書では主に英語圏の例が挙げられているが、一定の語学力とITスキル、安定したネット環境があれば他国の労働者（遠隔移民）が母国にいながら世界中で仕事できる。そうすると先進国労働者と

技能的に変わらず低賃金でも喜んで働いてくれる遠隔移民を雇う動きが強まり先進国の労働を代替する。英語圏ほど急激ではないが、数年後に労働市場に参入する日本人にとってもグローバルボテックスの波は避けられない。

他方でグローバルボテックスは多くの可能性も持つ。日本では未だに女性の出産や子育て世代の育児と仕事を両立するのは難しいが、リモート化やロボット化はこの両立を容易にするだろう。雇う側からはリモート化で通勤費やオフィス代を節約できる。労働者にとってはもらえる通勤手当が減るものの通勤に伴う時間的・肉体的疲労を軽減できる。浮いた時間を趣味や余暇に使うことで以前より

も人間的な生活ができるかもしれない。何よりも大きな利点として選べる仕事の選択肢が大きく増え、妥協なく自分の適性や生活様式に合った仕事が可能になると期待される。

グローバルボテックスは長期的には社会全体にとっては望ましいものになると思うが、損失を被る個人もいるだろう。なぜならグローバルボテックスは名目賃金だけでなく財価格も下げ、結果的に実質賃金は上がることも下がることもあるからである。本学部の就職先ランキング（人数順）の上位はサービス業と事務系公務員が占める⁴。そうした業種の労働市場はグローバルボテックスによって一昔前よりもはるかに競争的になる。皆さんには在学中に他の人と差別化できる能力や

適性を見つけ、より高い付加価値身に付ける努力をお願いしたい。

- 1 上村先生の講話「AI・ロボットと地方創生」（2019年6月24日）も参考にして頂けると幸いです。
- 2 詳細はhttps://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/assets/20210512_hr_01.pdfを参照。
- 3 著者は多くの研究成果を発表している国際貿易論の専門家である。YouTubeの「globotics」と検索すると彼の講演動画を見ることができると。
- 4 詳細は<https://www.kwansei.ac.jp/cms/kwansei.c.cppo/pdf/E3%80%902019%E5%B9%B4%E5%B1%A6%E3%80%91%E5%AD%A6%E9%83%A8%E5%88%A5%E5%B0%B1%E8%81%B7%E5%85%88%E4%B3%81%E6%A5%AD%E3%83%BB%E5%9B%A3%E4%BD%93.pdf>を参照。